

カーボン・オフセットの研究事業の経過

■平成 21 年度

①カーボン・オフセットの研究

基礎自治体におけるカーボン・オフセットの可能性として、自治体の関わり方・取り組む意義などを整理した。62 市区町村において、カーボン・オフセットについての認識の共有が図られた。

②シンポジウム

市区町村職員及び一般者を対象とした「低炭素社会を考えるシンポジウム」を開催。日本大学大学院法務研究科小林紀之教授による「低炭素社会構築に向けた取り組みと今後の課題」と題した講演、並びに「カーボン・オフセットの可能性」をテーマとしたパネルディスカッションを実施。

③職員研修

「カーボン・オフセットを考える」と題し、環境・地球温暖化対策を担当する区市町村職員に対して、専門的な知識、技能を習得する研修を実施。

■平成 22 年度

④カーボン・オフセットの研究

平成 22 年度は、前年度の結果を踏まえ、実施方法や課題等に関する実践的ノウハウの整理などについて研究を進めた。複数の重点課題を設定し、検討を行った成果としては、「自治体向けカーボン・オフセットガイドブック」と「取組モデル」が挙げられる。

⑤職員研修

「わかりやすいカーボン・オフセット」と題し、環境・地球温暖化対策を担当する区市町村職員に対して、専門的な知識、技能を習得する研修を実施。

■平成 23 年度

⑥カーボン・オフセットの研究、カーボン・オフセットクレジット共同購入

平成 23 年度は、各市区町村へのカーボン・オフセットの浸透・波及を目指していく段階と位置づけられる。「取組モデル」の一つである「会議・イベントでのカーボン・オフセット」について、各自治体の実践・体験を促進する。その他の「取組モデル」については、「ケース検討」として、検討委員会のメンバーが中心となって 6 自治体が参加し、それぞれの政策形成過程について共有を図っている。